

教室(診療科)紹介 (100)

そもそも心身医学とは？

心身医学講座

教授：端詰勝敬
准教授：竹内武昭
医局長：天野雄一

そもそも心身医学とは

「心療内科って何を診ているの?」「どんなことをしているの?」と尋ねられることが少なからずあります。基本的

には「心身症」といわれる患者の診療が主体です。心身症とは身体疾患のなかで発症や経過に心理社会的要因が密接に関与しているものをいいます。心身症は疾患というより病態として捉えることから専門とする疾患のイメージが持たれにくいのかかもしれません。そのような患者に対して東邦大学医療センター心療内科では症状改善を阻む要因を患者と一緒に探しながら、より適応的な状況への受け止め方や行動パターンを考えていきます。

なりたち

東邦大学に心身医学研究室が創設され、独立した診療科として心療内科外来が発足したのは1980(昭和55)年10月でした。今から35年ほど前になります。それまで第2内科の所属であった心療内科(自律神経班)は、1980年10月に当時の第2内科主任教授の故阿部達夫先生らのご尽力によって、筒井末春教授(東邦大学名誉教授)を初代教授として新たに発足しました。“㊦班”と呼ばれていた頃をご存知の方もいらっしゃるかもしれません。以来、筒井教授のご努力により、1991(平成3)年5月には心身医学講座に昇格しました。1999(平成11)年からは坪井康次(東邦大学名誉教授)、中野弘一(現学長補佐)両教授に引き継が



医局員集合写真。前列中央：端詰教授、前列中央左：竹内准教授

れ、臨床・教育・研究をさらに充実するべくご尽力されました。2015（平成27）年3月に坪井教授が退任され2015（平成27）年4月より端詰勝敬教授が引き継いでおります。端詰教授は頭痛の専門家としてのみならず臨床・研究・医学教育の充実を掲げて、日々活動に励んでおります。さらに2016年2月からは行動医学の専門家でもある竹内武昭先生が准教授として着任しました。

研修医の皆さんへ

心身症としての対応が必要な患者は科を問わずさまざまな科に来院されます。治療者患者関係の構築の仕方、慢性疾患患者の行動変容技法などを身につけることは、臨床を实践するうえで対応のスキルが広がることと思います。心療内科で診る患者の病態は社会心理的問題も複雑に絡み合っており、医学知識だけでは患者を診ることはできませ

ん。自分の持っているさまざまな知識を患者の診療に役立て、どのように応用していくのが重要となると考えております。

心療内科の講座はわが国には少なく、8施設しかありません。当心身医学講座では、毎年心療内科領域の学会を主催しており、学会活動にも積極的に取り組んでおります。2010年からはリラクゼーション外来の開設など新たな取り組みも行っております。心療内科領域のパイオニアとして医局員一同努力研鑽しております。

2017年度からは新専門医制度が導入されます。総合内科専門医を取得し、そのうえで心療内科専門医が取得できるよう研修制度を整えております。医局員一同お待ちしております。

(天野雄一)